

平成 21 年 4 月 9 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2005～2008

課題番号：17520176

研究課題名 (和文) エスニシティの新たな地平：アメリカ文学における新しいユダヤ性

研究課題名 (英文) The New Horizon of Ethnicity -- Postmodern Jewish Characteristics in American Literature

研究代表者

新田 玲子 (NITTA REIKO)

広島大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：40180674

研究成果の概要：

1970年代以降の、ポストモダンに属するユダヤ系アメリカ作家の作品分析とインタビューを通し、それ以前のユダヤ系アメリカ作家の場合とは明らかに異なる、新しいユダヤ性の在り方を分析した。このうち、作品研究は英語論文や国際学会の口答発表を通じて公開した。一方インタビューは、作家解説を加えて雑誌に連載した。さらに、他のマイノリティ作家の研究者を招いてシンポジウムを開催し、多民族国家アメリカの将来についても議論した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005 度	1,000,000	0	1,000,000
2006 度	600,000	0	600,000
2007 度	600,000	180,000	780,000
2008 度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	2,800,000	360,000	3,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：

- | | | |
|---------------|------------|-----------------|
| (1) アメリカ文学 | (2) ユダヤ系作家 | (3) エスニシティ |
| (4) ポストモダン | (5) ホロコースト | (6) ウォルター・アビッシュ |
| (7) ポール・オースター | (8) ユダヤ性 | |

1. 研究開始当初の背景

第二次世界大戦以降、それまで白人キリスト教徒が中心だったアメリカ文壇の中央で、様々なエスニシティを背景に持つマイノリティ作家の活躍が目覚ましくなった。この先駆けとなったのがユダヤ系アメリカ作家たちで、彼らの活動は後にアメリカエスニック文学という大きなうねりを生み出してゆく。しかし、1950年代から1960年代にかけて、文壇における特権であるかのように積極的に用いられたユダヤ的な題材や文化的特徴も、1970年代に入ると次第に影を潜めてゆくように見えた。次々と新しいマイノリティ作家が登場するなかで、多くの批評家は、ユダヤ系アメリカ市民は中産階級として定着し、経済的・社会的地位を高め、マイノリティとしてのユダヤ性は意味を失ったと宣言するようになった。同時に、ホロコーストがもたらした悲惨なユダヤ人体験も、第二次世界大戦の記憶とともに薄れ、ベトナム戦争やテロとの戦いといった新たな脅威に取って代われつつある。

しかし、1970年代以降のユダヤ系アメリカ作家であっても、ユダヤの文化的・歴史的影響から完全に脱却しているわけではない。しかも、ユダヤ系アメリカ作家はアメリカエスニシティの長子とも言える存在であるため、その新しい世代がユダヤ性をどのように受け継いでいるのかという分析は、多民族国家アメリカにおけるエスニシティの将来の在り方を予見させるものとなるだろう。

2. 研究の目的

そこで、本研究では、(1) 1970年代以降の新しいユダヤ系アメリカ作家の作品におけるユダヤ性を分析することで、現在のアメリカ

文学でユダヤ性がどのように用いられているのか、ユダヤの伝統や文化とアメリカ人としてのアイデンティティがどう関係付けられているのかを考察したいと考えた。さらに、(2) 新しいユダヤ系作家のユダヤ性を、彼らに先立つユダヤ系アメリカ作家の活動を踏まえた一連の流れの中で捉え直したり、他のマイノリティ作家と比較したりすることで、アメリカエスニック文学の今後を予測しつつ多民族国家アメリカの未来のあるべき姿を予見したいと願った。

3. 研究の方法

(1) ポストモダン作家の思想基盤の研究として、ポストモダン哲学者の研究を行う。

(2) まず、1970年代以降のユダヤ系アメリカ作家の新しい作品、例えばウォルター・アビッシュやポール・オースターらを分析して、作品から新しいユダヤ性の特徴を分析する。

(3) アビッシュら、新しいユダヤ系アメリカ作家に直接インタビューをすることで、現代のユダヤ系アメリカ作家がユダヤ性とどのように向き合っているのか、直接学ぶ。

(4) 論文や国際会議での発表を通して研究成果を広く公表すると同時に、他の学者と積極的に意見交換をする。

(5) 他のマイノリティ作家の研究者を招いたシンポジウムを開催し、今後のアメリカエスニック文学の在り方を広い視野から議論する。

4. 研究成果

本研究は、第二次世界大戦後にユダヤの伝統や特徴を前面に押し出して活躍したソール・ベロー、バーナード・マラマッド、フ

イリップ・ロスといった作家たちのユダヤ性とは一線を画す、1970年代以降の新しいユダヤ系アメリカ文学におけるユダヤ性を明らかにするという、これまでなされたことのない分析を行いつつ、多民族国家アメリカにおけるエスニシティの新たな動向を模索した。

ポストモダンと呼ばれる時代に属する作家を扱うため、作家研究の下準備として、ポストモダンの思想家について学ぶところから始め、特にユダヤ系と非ユダヤ系のポストモダン思想家との差異に着目しつつ、ユダヤ系思想家、ジャック・デリダやエマニュエル・レヴィナスの思想について整理した。これは先攻研究を学ぶというレベルのものでしかなかったが、次の独自の研究へと進むために踏まざるをえない重要なステップであった。

こうした基礎研究を受け、(1) ポストモダンの旗手と目される作家、ウォルター・アビッシュ、日本でも注目度が非常に高いポール・オースターやジョーゼフ・ヘラーなどの作品を、作品研究という形で分析した。これらの分析は論文、著書を通して公表した。英語で公表し、インターネットでホームページから情報が取得できるようにしているため、多くの人に関心を持ってもらっている。また、アビッシュとオースターの論文については国際学会でも発表し、その内容を世界各国の学者から直接高く評価してもらえただけでなく、彼らと将来に渡って交流を続けてゆく基盤を築くことができた。

さらに、新しい作家に直接質問を投げかけることも重要と考え、(2) アビッシュ、レイモンド・フェダマン、ハロルド・ジェフィ、ディヴィッド・マトリンらにインタビューした。オースターについてもインタビューを企画していたが、どうしても日程が折り合わず、今回は断念せざるをえなかった。インタビュ

ーでは個人的な意見を聞くことができただけでなく、非常に貴重な資料の提供を受けることもできた。また、四人の作家とのインタビューは『英語青年』に連載する形で公表した。その結果、国内の研究者に広く読まれ、その内容についても高く評価された。インタビューの原文を公表してもらいたいとの声も多いので、現在その準備を整え、公表の機会を模索中である。

新しいユダヤ性の研究は、アメリカにおけるエスニシティの動向を探る目的も兼ね備えていたため、(3) 2007年の日本アメリカ文学会で、先住民系、アジア系、ヒスパニック系など、他のマイノリティ作家の研究者らを招き、「変容するエスニシティの表象——アメリカ合衆国におけるマイノリティ文学から」という題目でシンポジウムを開催した。このシンポジウムは参加者も多く、活発な議論が交わされ、多民族国家アメリカがワスプ中心の社会から脱却し、異なる民族の多彩な思考形態を取り込みつつ発展している様子を複数の視点から明らかにできたことは大きな成果だった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 11 件)

(1) 新田 玲子

「ポストモダン・ユダヤ系アメリカ作家とのインタビュー④ディヴィッド・マトリン」(単著) 2008年8月、『英語青年』、72-77. 査読有り。

(2) 新田 玲子

「ポストモダン・ユダヤ系アメリカ作家とのインタビュー③：レイモンド・フェダマン」(単著) 2008年7月、『英語青年』、234-239. 査読有り。

(3) 新田 玲子

「ポストモダン・ユダヤ系アメリカ作家とのインタビュー：②ハロルド・ジェフイ」(単著)2008年6月、『英語青年』、154-159. 査読有り。

(4) 新田 玲子

「ポストモダン・ユダヤ系アメリカ作家とのインタビュー①：ウォルター・アビッシュ」(単著)2008年5月、『英語青年』、88-89. 査読有り。

(5) 新田 玲子

「Paul Auster's New Jewishness in the USA: *An Analysis of The Invention of Solitude*」(単著)2008年3月、『英語学英文學研究』第52巻、1-12. 査読有り。

(6) 新田 玲子

「Paul Auster の *The Invention of Solitude* における新しいユダヤ性—普遍性とのせめぎ合いから」(単著)2008年3月、『アメリカ・エスニック文学研究』No.4、15-26. 査読無し。

(7) 新田 玲子

「Interview with Walter Abish」(単著)2007年3月、『英語英文學研究』第51巻、75-84. 査読有り。

(8) 新田 玲子

「現代文学への新たなアプローチ—戦争を知らない世代のための新しい反戦文学」(単著)2007年3月、『広島大学表現技術プロジェクト研究センター』第3号、(10)-(25). 査読無し。

(9) 新田 玲子

「Assimilation in Postmodern Globalization: In Relation to Walter Abish's Jewishness in *Eclipse Fever*」(単著)2006年12月、『広島大学大学院文学研究科論集』第66巻、89-102. 査読無し。

(10) 新田 玲子

「Postmodernism and the Influence of the Holocaust in Walter Abish's *Alphabetical Africa*」(単著)2006年3月、『英語英文學研究』第50号、pp.51-62. 査読有り。

(11) 新田 玲子

「ホロコーストの影響とポストモダン—ウォルター・アビッシュの分析を中心に」(単著)2006年2月1日、『アメリカ・エスニック文学研究』第2号、pp.69-86. 査読無し。

[学会発表] (計 3 件)

(1)

学会発表者 (新田玲子)

発表題目「Paul Auster's New Jewishness in the USA: An Analysis of *The Invention of Solitude*」、国際文学精神分析学会議(International Conference of Literature and Psychology)、ポルトガル、リスボン市、2008年7月6日。

(2)

シンポジウム コーディネーター及兼発題者 (新田玲子)

シンポジウム題目「変容するエスニシティの表象—アメリカ合衆国におけるマイノリティ文学から」

発題題目「Paul Auster の新しいユダヤ性—普遍化とのせめぎあいから」

日本アメリカ文学会、広島市、広島経済大学、2007年10月14日。

(3)

学会発表者 (新田玲子)

発表題目「Postmodernism and the Ethical Influence of the Holocaust in Walter Abish」、ハワイ人文学国際会議(The Hawaii International Conference on Arts and Humanities)、アメリカ合衆国ハワイ州ホ

ノルル市、2007年1月14日。

〔図書〕（計 1 件）

(1) 『アメリカ文学と階級』（共著）、早瀬博範編、英宝社、2009.3。「ジョーゼフ・ヘラーが描くユダヤ体験——『輝けゴールド』における戯画化された階級とユダヤ性」、206-226。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

新田 玲子 (NITTA REIKO)

広島大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：40180674

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者